

スダホーク



1982年4月6日生 牡 芦毛
父:シーホーク
母:アヤベジヨー(母の父:ファアザーズイメージ)
浦河・山内静雄生産
調教師:古山良司(美浦) 馬主:須田松夫氏



芦毛のタフネスランナー

マラソンには「拾っていく」という戦い方がある。スピードについていけず優勝争いからは遅れたとしても、粘り強く追走し、先頭集団から脱落してきた選手をひとりずつ交わしていく、そんな戦術だ。

スダホークも多くのレースでこの走りを見せた。スタートダッシュには付き合わず後方に構えるが、向正面では自らに楽を許さずジワジワとポジションを上げる。3コーナーでも進撃を継続。そして直線、余力を失くした先行勢を競り落としていくのだ。スタミナに頼る戦術だから、体調が万全でないと自身も息切れを起こす。前が壁になる不利を被ることもあった。それでも、1985年の有馬記念ではしぶとく伸びて4着。1987年の天皇賞(春)は最後方から差を詰めて3着。宝塚記念は5着、5着、3着と大一番でたびたび掲示板を確保。これらのレースではギャロップダイナやクシロキング、フレッシュボイス、メジロデュレンといったGIウイナーらに先着を果たしている。

とはいえスダホーク本来の勝ちパターンは、自分の手で勝利をもぎ取りにいく正攻法の競馬にあった。弥生賞は3コーナーで先頭に並びかけ、直線では後続を4馬身も突き放した。アメリカジョッキークラブカップでも4コーナー手前で先行勢に詰め寄せ、粘るカネクロシオをねじ伏せ、迫るハーバークラウンを振り切ったの記録勝ち。トップハンデを背負った京都記念の直線では、横に大きく広がった先行勢を追い比の末に降した。阪神大賞典は離れた最後方から馬群の外を大きくマクって出て、前にいた8頭を飲み込んでいた。

ただしこれはGIIやGIIIでなら通用しても、メンバーの揃ったGIとなると難しい策だった。日本ダービーでは3~4コーナーでインを突いて直線入口で先頭。最後までよく頑張り抜いたが、シリウスシンボリには差し切られて2着に甘んじる。菊花賞では勝ったミホシンザンに直後から追撃したものの、瞬発力の差でここも2着。どうしてもスピードや切れ味に勝る馬には置き去りにされてしまうのだ。ならばとスダホークは、持ち味であるスタミナ、バテない強みを最大限生かそうと、粘り強く、我慢強く、1頭ずつ交わしていく戦いを貫いたのである。

1986年★第79回京都記念(GII) 58.5%のトップハンデをものともせず、中団追走から直線で鋭く伸びたスダホーク(帽色・緑)が、前走のアメリカジョッキークラブCに続き重賞連覇を達成。

年月日	場	レース名	距離	着順	タイム	騎手
1984.11. 3	東京	3歳新馬	芝1800	3	1:52.2	田村正光
11.17	東京	3歳新馬	ダ1700	1	1:46.3	田村正光
12. 8	中山	葉牡丹賞	芝2000	1	2:04.6	田村正光
1985. 1.19	中山	ジュニアC	芝2000	2	2:04.7	田村正光
2.10	東京	共同通信杯4歳S(GIII)	芝1800	5	1:53.3	田村正光
3. 3	中山	報知杯弥生賞(GIII)	芝2000	1	2:03.0	田村正光
4.14	中山	皐月賞(GI)	芝2000	6	2:03.2	田村正光
5.26	東京	東京優駿(GI)	芝2400	2	2:31.5	田原成貴
9.29	阪神	神戸新聞杯(GIII)	芝2000	5	2:04.8	田原成貴
10.20	京都	京都新聞杯(GII)	芝2200	5	2:15.1	田原成貴
11.10	京都	菊花賞(GI)	芝3000	2	3:08.3	田原成貴
12.22	中山	有馬記念(GI)	芝2500	4	2:34.2	田原成貴
1986. 1.19	中山	アメリカジョッキークラブC(GII)	芝2200	1	R2:13.3	田原成貴
2.16	京都	京都記念(GII)	芝2400	1	2:30.3	田原成貴
3.30	阪神	サンケイ大坂杯(GII)	芝2000	2	2:01.6	田原成貴
4.29	京都	天皇賞(春)(GI)	芝3200	7	3:26.4	田原成貴
6. 1	阪神	宝塚記念(GI)	芝2200	5	2:14.7	田原成貴
10. 5	東京	毎日王冠(GII)	芝1800	8	1:47.3	田村正光
10.26	東京	天皇賞(秋)(GI)	芝2000	10	1:59.8	田村正光
11.23	東京	ジャパンカップ(GI)	芝2400	14	2:26.7	田村正光
12.21	中山	有馬記念(GI)	芝2500	11	2:34.8	田村正光
1987. 1.25	京都	日経新春杯(GII)	芝2200	5	2:17.4	田村正光
3.15	阪神	阪神大賞典(GII)	芝3000	1	3:10.3	田村正光
4.29	京都	天皇賞(春)(GI)	芝3200	3	3:20.8	田村正光
6.14	阪神	宝塚記念(GI)	芝2200	5	2:13.4	田村正光
12.27	中山	有馬記念(GI)	芝2500	13	2:36.0	柴田政人
1988. 1.24	中山	アメリカジョッキークラブC(GII)	芝2200	4	2:13.7	柴田政人
3.13	阪神	阪神大賞典(GII)	芝3000	7	3:13.5	樋口 弘
4.29	京都	天皇賞(春)(GI)	芝3200	7	3:24.0	岩元市三
6.12	阪神	宝塚記念(GI)	芝2200	3	2:13.8	田島良保

※レース名は当時の表記による



1985年★第46回菊花賞(GI) 直線で大外について差を詰めたスダホーク(帽色・黄)だったが、ミホシンザン(帽色・緑)を捉えることはできず、ダービーに続きまたしても2着と涙を吞んだ。